スクラップ市況概況　メタルドゥ・藤田社長が寄稿

今度3ヵ月の相場はNi横ばい，Co反発と予測

世界経済は昨秋から後退局面に入っていたものの，足元では需要の落込みが下げ止まり，中国などでは明るい兆しもみえ，今年下半期も回復傾向を続けるかが焦点となる。ニッケルとコバルトの今年7～9月の市況について，レアメタル関連のスクラップ商社・**メタルドゥ社長　藤田國廣氏**に寄稿してもらった。**（次回は10月1日号に掲載）**

ニッケルは，強気要因と弱気要因が入り乱れる

ニッケルの国際相場は4月中旬以降，堅調な回復をみせている。lb当り約5ドル（t当り11,000ドル）から上昇し，6月25日時点で約6.8ドル（t当り15,000ドル）をつけている。東アジアやインドなどの製造業の回復が主要因であるが，投機利潤を求める動きも出始めたためだろう。

世界経済の回復基調はまだ緩慢であり，こうした実需の要因だけで価格を好転させるにはまだ時間がかかるとおもわれる。その一方で，ステンレス生産は秋口まで増産のおおよその見通しが立っているため，この期間は市中にあるスクラップ原料の不足がLME相場の下支えをしていくとおもわれる。国際相場は7～8月の間でlb当り6.35ドル～7.03ドル（t当り14,000～15,500ドル）と予測している。

コバルトはDRCが供給再開も日欧米中の実需が回復

コバルトの国際価格は6月の初旬に底を打ち，若干の回復基調をみせている。高品位コバルト（99.8%）が高くなっているのは，ニオブやタンタルの引合いも伸びてきているため，ヨーロッパやアメリカのスーパーアロイ需要が回復したためではないだろうか。また中国はスクラップの輸入で，通関上の障害が発生しており，その分原料の手当てが地金にむかってくることもあるだろう。日本の2次電池生産，特にリチウムイオン電池はほぼ90%の操業率に回復しており，コバルトの今年の需要見通しを明るくしている。このため，価格が安いうちに，原料を手当てする動きもみられる。

ただし，コンゴ民主共和国（DRC）がコバルト鉱石などの供給を再開していることを考えると，国際相場がこのまま堅調な値上りを続けていけるかは，心もとない。高品位コバルト（99.8%）の国際相場は，今年4月初めに予想した「lb当り18ドル」くらいまで高騰すると予測している。

レアメタル・スクラップ市況　大部分でタイト感強まる

レアメタル・スクラップ市況はSUS316，洋白，ハイス，純タングステン，6Al-Vチタンをのぞく品目が前回（6月16日）より値上りし，今後も値上りの可能性が出る。地金相場が値上り傾向にあるうえ，スクラップ発生量が少ない一方，引合いが徐々に増え，タイト感が強まる。

（同業者間取引価格。kg）※矢印は今後の相場の気配を表す

・ステンレス	SUS304新切	120～140円↗
	SUS316新切	140～170円→
・ニッケル系合金		
	SUS310新切	240～270円↗
	カーペンター42(42Ni Alloy)新切	490～520円↗
	インコネル600新切	840～890円↗
	キュープロニッケル(白銅)30%Ni-70%Cu	360～380円↗
	R-モネル	580～600円↗
	洋白新切（1種）	280～300円↗
・コバルト系合金		
	コバール新切	370～400円↗
	磁石鋼(アルニコ No5)	230～280円↗
	ステライト(Co＝50%)	300～350円↗
・タングステン・モリブデン系		
	ハイス9種	70～80円→
	ハイス2種	50～60円→
	超硬合金(Gタイプ)	800～900円↗
	超硬合金(Sタイプ)	800～900円↗
	純タングステン	720～820円→
	純モリブデン	900～1000円↗
・チタン系	純チタン新切	—
	6Al-4Vチタン新切	80円→
	雑合金新切	—